

大津企業景況調査報告書

(第94回)

令和3年7月～9月期実績

令和3年10月～12月期見通し

大津商工会議所

大津企業景況調査について
(令和3年7月～9月期)

1. 調査方法

大津商工会議所会員企業 100 社に F A X 方式による調査

2. 調査企業

産 業 別	調査対象企業数	有効回答企業数	回 収 率
製 造 業	1 2 社	1 1 社	9 1 . 2 %
卸 売 業	1 3 社	1 1 社	8 4 . 6 %
小 売 業	2 5 社	2 0 社	8 0 . 0 %
サービス業	3 1 社	2 5 社	8 0 . 6 %
建 設 業	1 9 社	1 7 社	8 9 . 5 %
合 計	1 0 0 社	8 4 社	8 4 . 0 %

3. 調査期間

調査対象期間は令和3年7月～9月とし、調査時点は令和3年9月1日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指数として DI 指数を採用した。DI 指数とは Diffusion Index (景気動向指数)の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値である。

「業況」、「売上高」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は、前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金借り入れの難易度」の DI 指数は、3 ヶ月前との比較である。

「採算(経常利益)の水準」、「取引の問い合わせ」の DI 指数は、過去比較でなく、水準を聞いたものである。

景況感は連続改善が反転し、回復への道のりは遠のく

令和3年7月～9月期の大津企業景況調査の結果がまとまった。調査結果を示す指数としてDI指数（景気動向指数）を採用している。DI指数は実数値などの上昇率を示すものでなく、強気、弱気などの経営者マインドの相対的な広がりの意味する。

全体

景況感は、今四半期の全体の業況判断DI（前年同期比）が前四半期の▲13から7ポイント悪化し▲20となり、4四半期連続の改善から一転してマイナス幅が拡大し、プラスまでの道のりは遠のいた。業種別では、小売業が+5から▲20へ大幅悪化するとともにマイナスに転じ、卸売業も▲20から▲46へ、サービス業も▲17から▲32へと悪化し、前期に一旦改善した非製造業は今期再び悪化した。一方で、製造業は▲22から+9へと3年ぶりにプラスに転じ、建設業も▲20から▲6へと改善した。

先行きの業況判断DIは、全体では▲20から▲31へと悪化するとみており、今四半期に改善した建設業では23ポイント悪化し▲29へ、製造業も9ポイント悪化し±0へ、また小売業でも30ポイント悪化し▲50へとさらにマイナス幅が拡大するとみている。一方、卸売業では10ポイント改善し▲36へ、サービス業でも▲32から▲28へと改善するとみている。が、いずれにしてもマイナス圏から脱出までの道のりは遠い。

□ 業況判断DI（前年同期比）は、全体ではマイナス幅は反転拡大し、悪化が進む

「前年同期比でみた業況判断DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、前四半期の▲13今期は▲20となり、これまでの4四半期連続の改善から反転し、プラスへの道のりは遠のいた。

□ 売上DI（前年同期比）は、非製造業を中心に悪化し、特に卸売業で顕著な落込み

「前年同期比でみた売上DI(全体)」(「増加」－「減少」)は、前四半期の▲5から▲14へと再び悪化に転じた。業種別では、卸売業が+30から▲46へと76ポイントの大幅な悪化となり、小売業も25ポイント、サービス業も14ポイント悪化し、それぞれ▲20となった。一方で、建設業、製造業が30ポイント超改善し、それぞれ+6、+9へとプラスに転じた。

□ 採算DI（前年同期比）は、全体では悪化するも、建設業、製造業では改善

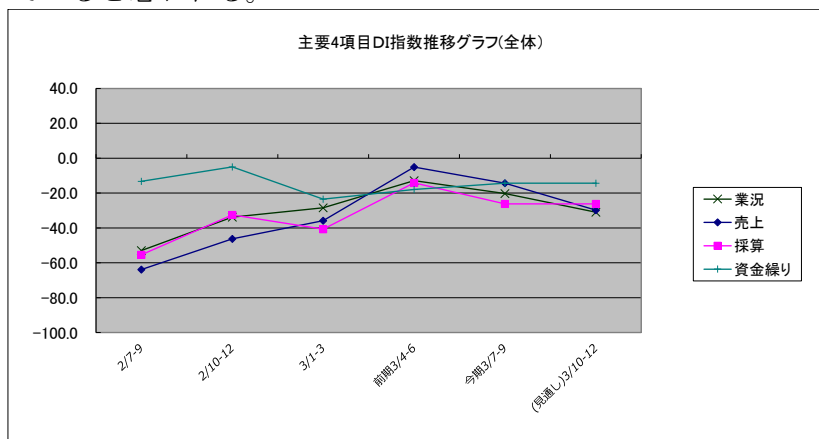
「前年同期比でみた採算(経常利益)DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、前四半期の▲14から今四半期は▲26へと悪化した。前期に改善が進んだ非製造業では、卸売業が▲10から▲36へ、小売業が+5から▲25へ、サービス業が▲8から▲28へと今期は軒並み悪化した。一方で、建設業は▲40から▲29へ、製造業は▲33から▲9へと改善が進んだ。

□ 資金繰りDI（3ヵ月前比）は、全体として小幅改善も、小売業では悪化

「3ヵ月前比でみた資金繰りDI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、前四半期の▲18から▲14へと小幅改善した。サービス業で▲25から▲4へとさらに改善が進み、卸売業でも▲30から▲18へ、製造業でも小幅改善した。一方で、小売業では▲10から▲30へと悪化した。売上の減少が手元資金の逼迫につながっていると想定される。

□ 従業員DI（前年同期比）は、全体で人手不足は逼迫し、特に建設業、サービス業で顕著

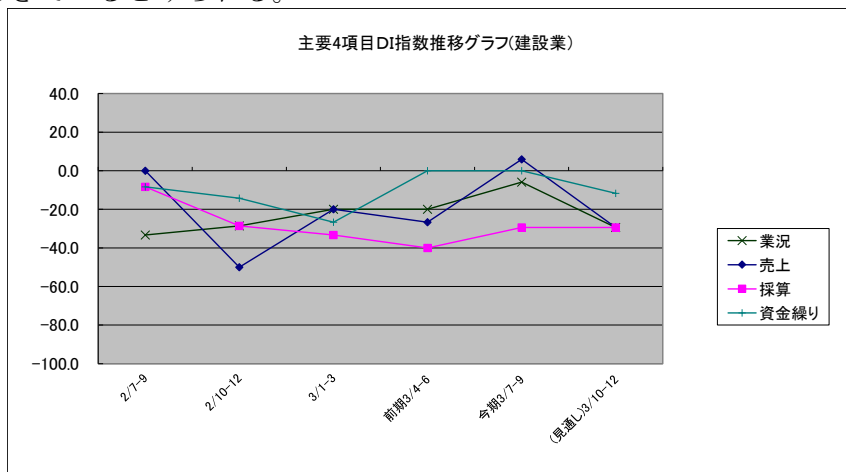
「前年同期比でみた従業員DI(全体)」(「不足」－「過剰」)は、前四半期の+13から今期は+21へと再び逼迫の度合いを増してきた。売上が改善した建設業でも+33から+47へと人手不足がさらに顕著になり、売上が伸び悩む卸売業、サービス業でも人手不足感が高まっている。一方で、小売業は+15から+10へと緩和しており、売上げ減少に伴う仕事量の減少が影響していると思われる。



建設業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲20 から今四半期は▲6 へと改善している。個別指標をみると、「売上」は前四半期の▲27 から今四半期は+6 へと大幅に改善し、プラスに転じた。「採算」についても▲40 から▲29 へと改善している。新聞で報道されているように、北米市場での『ウッドショック』による世界的な木材価格の高騰や入手難が一服し、国内での建設資材も少しずつ品薄解消や価格安定に向かっていることが影響していると想定される。「資金繰り」については、今期の±0 を維持しており、国のコロナ融資の施策が一定の効果を与えているものと思われる。

「従業員」は前四半期の+33 から今四半期は+47 となり、業況の回復に伴い、人手不足感が高まってきているとみられる。

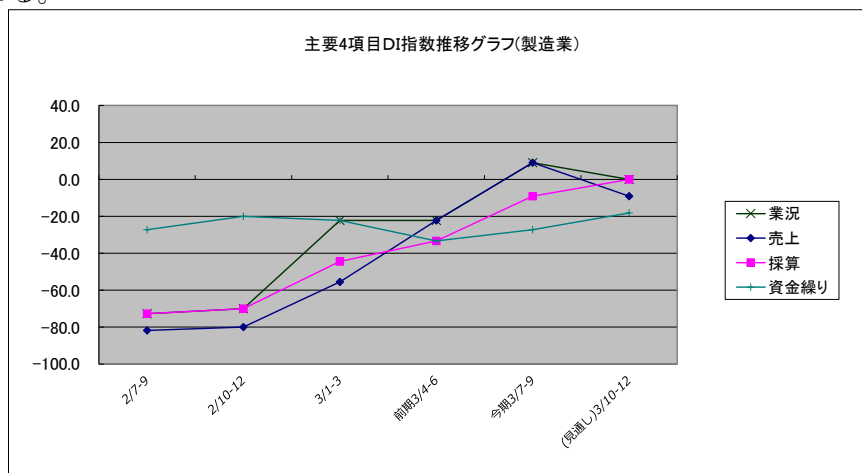


製造業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲22 から今四半期は+9 へと3年ぶりにプラスに転じた。個別指標をみると、「売上」は▲22 から+9 へと、前期に続いて今期も30ポイントを超える大幅改善となった。「採算」についても▲33 から▲9 へ、また「資金繰り」についても▲33 から▲27 へと改善している。

製造業はコロナ禍により、一時期リーマンショック時に迫る悪化状態となっていたが、国内外での生産活動の回復に伴い、当地においてもさらに改善の動きが加速しているように思われる。

「従業員」については、前四半期の▲11 から今四半期は±0 となっており、業況回復による仕事量の増加で前期の人員過剰感は払拭され、丁度バランスが取れている状況になっている様子がみとれる。



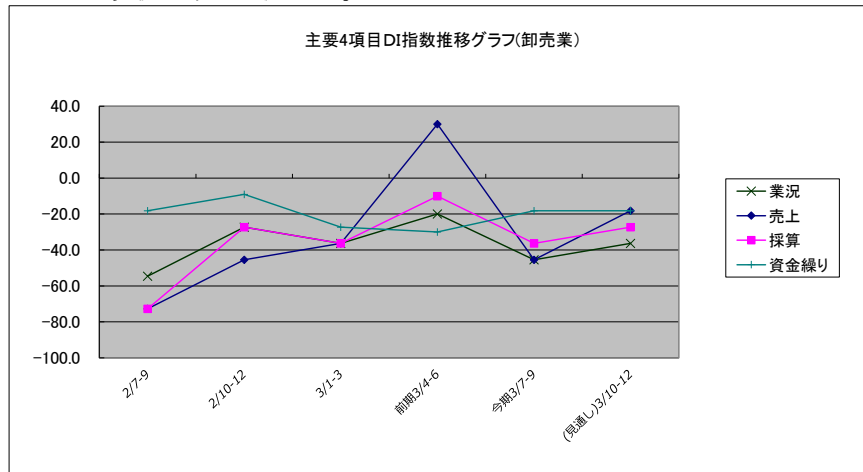
卸売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期▲20 から今四半期は▲46 へと大幅に悪化した。個別指標をみると、「売上」は前四半期の+30 から今四半期は▲46 となり、76 ポイントの大幅悪化による急降下でマイナスに転じた。「採算」についても前四半期の▲10 から▲36 へと悪化している。コロナ感染拡大の波の上下が当業種の業況の変動に大きく影響している様子が見て取れる。

「資金繰り」については、▲30 から▲18 へと改善しているものの、売上の乱高下に伴って運転資金の調達に苦慮している状況もうかがえる。

コロナ禍による影響を大きく被っている飲食関連の卸売業の現場からは、現状打開への手立てがなかなか打てない状況に苛立ちの声も聞こえてくる。

「従業員」は前四半期の▲20 から今四半期は+18 となり、業況の悪化にもかかわらず人員確保に苦勞している状況が見て取れる。

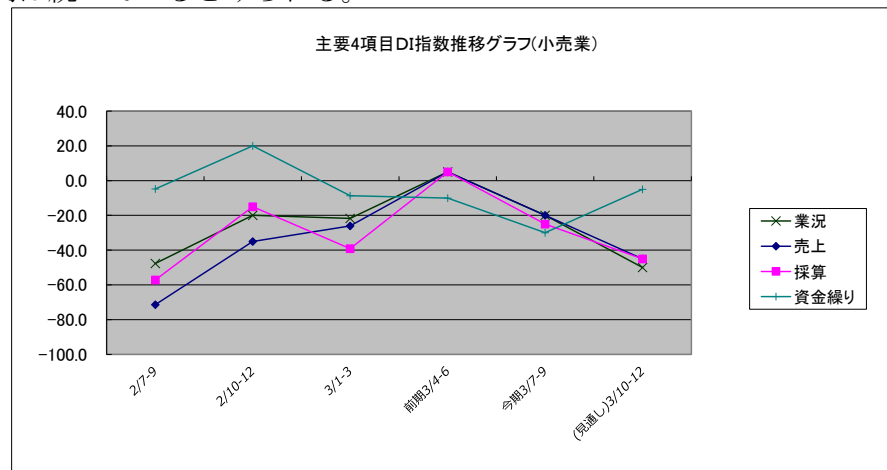


小売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の+5 から今四半期は▲20 へと大幅に悪化し、再びマイナスに転じた。個別指標をみると、「売上」も+5 から 25 ポイント悪化して▲20 となり、「採算」についても+5 から▲25 へと悪化し、いずれもマイナスに転じている。

一方で、コロナ禍で人々が行動制限を受ける中、ささやかな刺激や生活の変化を求める声に耳を傾け、商品やサービスにあらたな付加価値を加えるアイデアの創出や、ネット通販対応で売上の回復を図っているという現場の前向きな声も聞こえてくる。「資金繰り」は前四半期の▲10 から今四半期は▲30 へと悪化しており、コロナ関連の資金支援が底をついてきている状況もうかがえる。

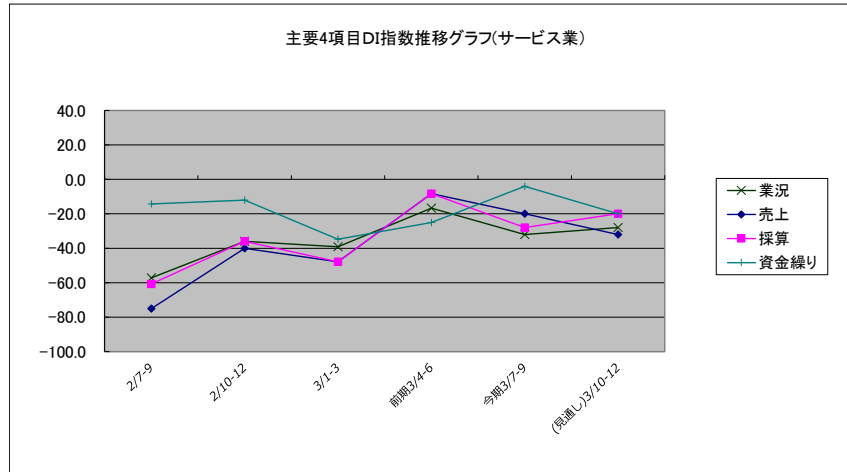
「従業員」は前四半期の+15 から今四半期は+10 となり、売上の減少基調の中、人手不足感の緩和傾向は続いているとみられる。



サービス業

DI指数をみると、「業況」は前四半期の▲17から今四半期は▲32へと14ポイント悪化している。個別指標をみると、「売上」も▲8から▲20へ、「採算」も▲8から▲28へと、いずれも悪化しており、コロナ感染拡大の波と相まって業況が大きく影響を受けている様子が見て取れる。度重なるコロナ感染拡大の波と付随する人々の行動制限や人流の抑制の影響をもろに受ける業種であり、ワクチン接種による経済の回復を望む声が高まっている。

「従業員」は前四半期の+21から今四半期は+24となり、売上の減少にもかかわらず、全体として人手不足状態が解消されていない状況が見て取れる。



来四半期(3ヵ月後)の「業況」DIは、今四半期の▲20から来四半期は▲31へとさらに悪化するとみている。個別指標をみると、「売上」は▲14から▲30へ悪化するとみている。一方で、「採算」については▲26を維持するとみている。「従業員」については+21から+19へと人手不足感は足踏み状態となるとみているが、滋賀県全体の有効求人倍率は令和2年4月以降、連続1.0を下回っており、引き続き動向に注意する必要がある。

業種別の「業況」DIでは、小売業は今四半期の▲20から来四半期は30ポイント減の大幅悪化で▲50になるとみっており、建設業も▲6から▲29へ、製造業も+9から±0へと再び悪化するとみている。一方で、卸売業は▲46から▲36へ、サービス業でも▲32から▲28へと改善するとみている。

コロナワクチン接種が進み、ようやく第5波が収まってきており、経済の回復が期待される中、国内では業況改善の動きもうかがえるが、年末にかけて新たな変異株での第6波の拡大で再び行動制限が発出される懸念や、半導体不足やエネルギー費用や原材料の価格高騰による経済の停滞予測などで現場からは今後の事業運営に不安の声も出ている。

3ヵ月後の設備投資については、「計画がある」と回答した割合は26%で、3ヵ月前の28%から2ポイント低下しており、設備投資に対する意欲は引き続き低い状態を維持している結果となった。業種別では、卸売業が46%、製造業が36%、小売業が30%、建設業が18%、サービス業が16%となっており、業況の悪化が予測される業種では投資に対して、より慎重な姿勢を取る傾向がうかがえる。

投資内容の割合は、「設備更新」が44%で最も多く、コロナ禍による業況の先行き不透明であるが、老朽化設備の入れ替えは必要と判断されていると思われる。「生産力増強」については、3ヵ月前の12%から今期は24%へ、「合理化・省力化」は3ヵ月前の12%が今期は20%となり、これらの前向きな設備投資への意欲が若干持ち直してきている様子も見て取れる。

一方で、投資方針は、「計画通り」が55%が50%となり、逆に「景気により見直す」が18%から32%へと増加しており、先行きの不透明感から慎重な姿勢がうかがわれる。

田中マネジメント事務所
MBA・中小企業診断士 田中清行

(今の経済情勢に対する意見) 以下は、今の経済情勢に対する意見である。

- ・企業において、設備投資や、方針に沿った行動は、明確な目的があって行います。現状の政策や対策が将来どうなるか？吟味し、企業として人として生き残る道は、独自の路線を歩む事になりました。(製造業)
- ・昨年3月より需要の停滞が続き売上が減少し回復していない。雇用調整助成金を活用し、従業員を維持していますが、なくなった場合、人員削減なども考えていかなければならない。(製造業)
- ・どうしようもないです。やれることをやるだけです。(卸売業)
- ・お客様は自分の生活範囲の中で、ささやかな刺激や変化を求めておられると感じます。商品やサービスにそのちょっと加える事が、先の見えない「今」できる事と日々努力です。
(小売業)
- ・新たな通信販売が伸び出して、従来の営業の需要停滞と、顧客の物販の減少から店舗での新たな若い世代の取り込みを中心に、確実に業態の移行、変更を実行するしかない。コロナ以前の売上になるまで、まだ追いついていないが、資金調達が出来、設備ハウス改革が出来れば、次の目標までまいしんするしかない。(小売業)
- ・先行きには3つの不安がある。コロナ感染の再拡大、半導体不足、原材料価格の高騰である。ワクチンが普及しても、宣言延長や感染者拡大などで見立ては難しく、行動制限が続く限り、サービス業種の需要回復は遅れている。(サービス業)
- ・消費税を当面の間0%にすること。(サービス業)
- ・県外の移動が制御されており、収益性の高い県外の仕事が受注できない。(サービス業)
- ・木材、ステンレス材、釘にいたるまで価格の上昇が大きく、利益が少なくなる。しかし、大雨が続いた為、雨モレが大量の発生。これを機会に、リフォームにつなげたい。(建設業)
- ・コロナウィルスが終息しない限りは、経済の安定は期待できないと思います。(建設業)

以 上

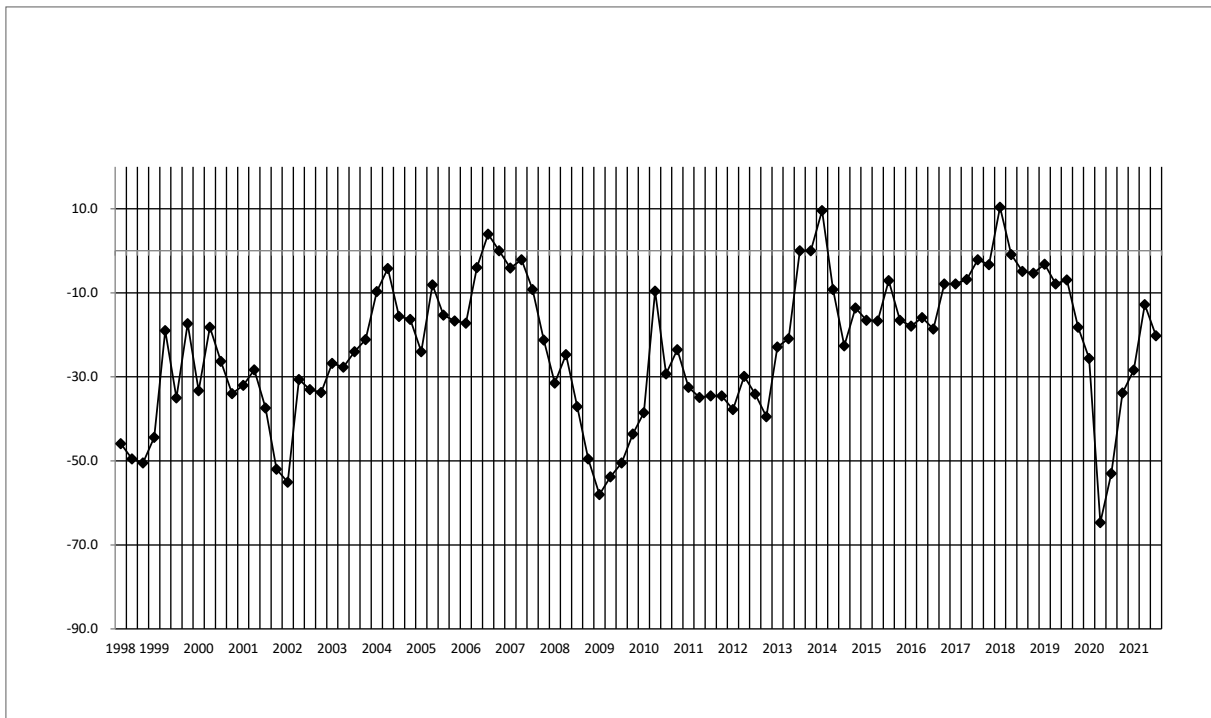
DI 指数一覧表

	業 況		売 上 高		採 算 (経常利益)	
	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し
全 体	▲20.2	▲31.0	▲14.3	▲29.8	▲26.2	▲26.2
建 設 業	▲5.9	▲29.4	5.9	▲29.4	▲29.4	▲29.4
製 造 業	9.1	0.0	9.1	▲9.1	▲9.1	0.0
卸 売 業	▲45.5	▲36.4	▲45.5	▲18.2	▲36.4	▲27.3
小 売 業	▲20.0	▲50.0	▲20.0	▲45.0	▲25.0	▲45.0
サービス業	▲32.0	▲28.0	▲20.0	▲32.0	▲28.0	▲20.0
	前年同期との比較		前年同期との比較		前年同期との比較	

	採算 (経常利益) の水準		取引の問い合わせ		従 業 員	
	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し
全 体	9.5	4.8	▲33.3	▲31.0	21.4	19.0
建 設 業	35.3	17.6	▲17.6	▲23.5	47.1	41.2
製 造 業	9.1	18.2	▲27.3	▲18.2	0.0	0.0
卸 売 業	18.2	18.2	▲45.5	▲36.4	18.2	18.2
小 売 業	▲15.0	▲25.0	▲35.0	▲25.0	10.0	10.0
サービス業	8.0	8.0	▲40.0	▲44.0	24.0	20.0
	今期水準と来期見通し		今期水準と来期見通し		前年同期との比較	

	資金繰り		長期資金借入難易度		短期資金借入難易度	
	7-9月期 動向	10-12月期 見通し	7-9月期 動向	10-12月期 見通し	7-9月期 動向	10-12月期 見通し
全体	▲14.3	▲14.3	▲4.8	▲4.8	1.2	0.0
建設業	0.0	▲11.8	11.8	11.8	23.5	23.5
製造業	▲27.3	▲18.2	▲9.1	▲9.1	0.0	0.0
卸売業	▲18.2	▲18.2	▲18.2	▲18.2	▲9.1	▲9.1
小売業	▲30.0	▲5.0	▲10.0	▲10.0	▲5.0	▲10.0
サービス業	▲4.0	▲20.0	▲4.0	▲4.0	▲4.0	▲4.0
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

本調査開始（1998年 第二四半期）以降 業況DI指数推移グラフ（全体）



※縦目盛り軸は、全業種の業況DI指数を表しています。横目盛り軸は、調査年を西暦で表しています。

大津商工会議所

〒520-0806

滋賀県大津市打出浜 2 番 1 号

コラボしが 21 9 階

TEL : 0 7 7 - 5 1 1 - 1 5 0 0

FAX : 0 7 7 - 5 2 6 - 0 7 9 5

URL <http://www.otsucci.or.jp/>